



# さゆりっ子

## 令和4年度 グランドデザインによせて



例年お世話になっている小平農園さんに年長さんと一緒にリンゴのお花見に出かけました。一面にかわいらしい満開の花々が出迎えてくれました。花のつくりに関心を寄せ、花びらが5枚あるかなとじ〜と見つめ、自分で確かめようとしている子どもたちの姿がとても印象的でした。

だりあ組からすてきな写真が届きました。『このぼり集会で発表する絵を描いている場面。お皿に載せた柏餅を描こうとお皿から描き始めましたが、柏餅がお皿の上に描けないことに気づきました。』

緑色の葉の上に白いお餅が載っているイメージがあったので、これは困った、どうしようということになったようです。



お皿から描きたかったお友だちは「黒と白を混ぜれば“あんこ”になるんだよ。」と柏葉がなくてもいいのではないかと提案しています。（ここは？ですが。）ちょっとここで想像してみてください。この場面を「書き言葉」だけで伝えられた場合と上のように一枚の写真が添えてある場合では、聞き手に伝わる情報はどのように違いがあるのでしょうか。

お皿から描きたかった思い、あんこを表現できることを指差ししてまで伝えようとする子、ちょっと前かがみになってその言葉を聞こうとしている子、お隣のグループではあるが、アドバイスをしようと言葉をかけようとする子、やりとりを見守る子、…そして何よりもこのやりとりがみんな笑顔で行われている。こんなにもたくさんの情報を得ることができます。書き言葉からはここまではさすがに難しい。

そして担任がこの場面、やりとりを振り返って、「ここでもいつもの積極性が活かされているな。」と普段からのその子の見方が更に確かになるかも知れません。また、「エッ！こんな表情を見せてくれるんだ。友だちも関わりやすいだろうな。」のように新たな、新鮮な気づきがあるかも知れません。

一瞬で過ぎていってしまう子どもの姿をじっくりと見つめることでこんなにも楽しくなるものかと改めて思われました。

## 「子どものとらえ」を大事にする

このような写真を通してのやりとり（「保育型ドキュメンテーション」）を先生方に紹介し、毎日の振り返りに取り入れていってもらっています。

### 遊びは学び

園教育方針に掲げている『遊びは学び』を保育の場で具現化していく上で大切にしていきたいことが子どもの「主体性」です。

幼稚園での子どもたちの活動はすべて「遊び」。遊びにかかわる子どもたち一人ひとりの姿（主体性）を広げ、深めてその子を理解しようとする事で保育士は、その子の学んでいく（成長していく）過程に寄り添っていくことができます。この過程に保育型ドキュメンテーションを有効活用しようと思います。

子どもが帰った後の教室でその日の子どもの姿を思い浮かべる時に、また同僚と語り合う中に、1枚の写真があると今までとはまた違った時間の過ごし方ができるかと思っています。

#### うれしい言葉（4/15）

園日誌の職員の一言に『入園当初はとっても静かなクラスだと思ったものの、少しずつ楽しそうに遊んだり、いたずらをしたりする姿が見ることができ、とてもうれしく思います。クラスカラーが見えてくるのが楽しみです。』とあった。子どもたちの姿をそっくり受け止め、良さを引き出していこうとする職員の前向きな姿勢が見えてくる言葉であった。

また参観日の折、「今日はおかあさんにくっついていて、ホッとしました。」と担任が保護者とお話をされていた。その子は活動中、どうしてもお母さんが気になり、お母さんに抱っこをせがみに行く姿があった。お母さんにしてみると「ちゃんと席に着いてお話を聞いて…」と思っていたのかなと想像したが、「新たな一面が見られて良かったです。」と担任は温かく包み込んでくれる一言を添えていた。「よかったね。」と我が子と手を繋いで帰路に就く親子の姿が浮かんできました。

#### お昼寝（4/28）

我が家の孫は「お昼寝するよ。」とドライブに行くことがある。ぐっすり眠りに就くときもあれば、ウトウトして車から降ろされそうになるとパチッと目を開けるとときもある。その時によって眠ってくれたり、くれなかつたりである。

園でも年少の子どもたちにはお昼寝は一大イベントである。

お昼を食べて、歯磨きをして、トイレに行って、お昼寝とローテーションになっているが、担任、副任、専科の先生…とお部屋に入ってくれる。

「〇〇先生と寝る。」と指名してくる子、抱っこされながら眠りに就く子、お布団を先生の横に敷きたがる子、トントンされながら眠る子…

一人ひとりにまさに寄り添いながら寝かしつけてくれる。

安心しきった寝顔が一層かわいらしく見えてくるように思う。

